

グッドバンカー社では、SRI アナリストが分析、評価するのは、企業の社会的責任（CSR）であり、では企業の CSR は何かというと、ESG（環境、社会、ガバナンス）の課題に積極的に取り組み、そのことが、企業の競争力につながるような経営をすることだと、定義しています。分析、評価するためのツールとして、独自の格付システムを開発、800 項目について、業界ごとの特性を考慮しながら点数化しています。技術の進歩や社会の変化にあわせて、定期的に評価指標や配点の見直しがなされており、そのためにアナリストには高度で広汎な知識と判断力が求められます。情報収集のスキルも必要です。ものごとの本質をつかむ深い洞察力も重要です。また、たえず科学や社会学などの分野での最新の知見に接する環境にいなければなりません。そのため、当社では 1998 年の設立以来、アナリストチームのダイバーシティ（多様性）を構築することに努めてきました。年齢は 30 代から 80 代まで。働き方も多様であり、子育てをしながら在宅でとか、大学で教えながら、またアート関係の仕事で全国をまわりながら等、昨今の働き方改革を先取りしています。地理的にも東北、関西、九州にまたがっています。

九州・鹿児島と長野にはサテライトオフィスがあります。気候的にも全く違った状況の中で、肌で感じる地理感覚が、アナリストの発想を豊かにするはずです。地方に本社のある上場企業の、その土地ならではの評判を収集して、東京で確認のための訪問やヒアリングをすることもあります。また地方新聞に載った記事で関心を持ち、中央ではあまり知られていない企業を訪問、調査することもあります。その結果、あらたに投資対象になるような企業が発掘されることがあります。このような作業は投資ユニバースの拡大につながると、運用者に高く評価されています。

オフィスにこもって、インターネット等で、公開情報に当たっているだけでは得られない、体を使った定性的な情報の蓄積が、実は企業の変化が数字にあらわれる前の、いわば「変化の予兆」といったものを捉えるために有効ではないか、ということが、当社の経験知です。ここに SRI アナリストの調査の醍醐味があります。また、当社の ESG 格付の推移と企業価値の相関については、京都大学(※1)や金融庁金融研究研修センター(※2)での実証研究が出ており、ポジティブな結果になっています。いつでもどこでも、ESG というレンズを通して見る企業の姿を、正しくとらえ発信することで、企業の成長と社会の進歩をサポートし、地球のサステナビリティに貢献するのが SRI アナリストの仕事と言えます。

参考資料：(※1)川北英隆・白須洋子・山本信一 [編著] 「総合分析 株式の長期投資」中央経済社

(※2)白須 洋子(2009 年)「企業の社会的責任投資(SRI)ファンドの収益性について」

<http://www.fsa.go.jp/frtc/seika/discussion/2009/20090630.pdf>